

Library NEWS

～図書館だより～

5月

令和3年度 晃陽中学校図書館

新年度が始まって一ヶ月がたちました。新しい環境には慣れてきましたか？
小説以外の本もたくさんあります。新しいジャンルにも挑戦してみましょう！

映画の原作を読んでみよう！



『夏への扉』

ロバート A ハインライン
集英社
933/ハ

6月25日公開の映画。アメリカのSF作家が1956年に発表したタイムトラベル小説の名作。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のアイデアの元になった小説としても有名。人工冬眠が実用化され、未来への片道旅行が流行しているという近未来の話。

2021年本屋大賞決定！

本屋大賞のコーナーあります。

今年の本屋大賞は、町田そのこ著『52ヘルツのクジラたち』です。本屋大賞にノミネートされる本はどれも面白いです。



映画の原作本のコーナーあります

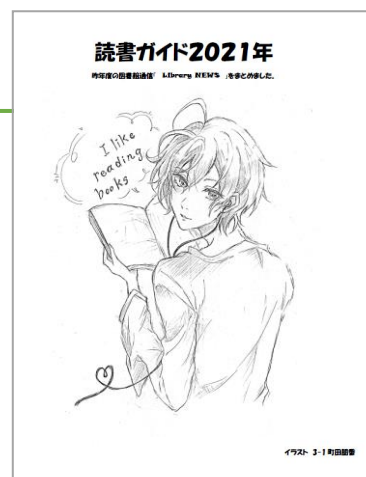


読書ガイド配布しました。

4月23日は全国こども読書の日です。子ども読書の日とは、子どもに読書を勧めるだけでなく、読書の大切さを考えましょうという取り組みでもあります。

その日にちなみ、昨年度の図書だより「Library NEWS」の裏面を1冊にまとめて、みなさんに配布しました。

どの本も晃陽中の図書館にある本です。借りられます。本に親しむ人が増えることを期待しています。



晃陽は
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

晃陽中学校のホームページで各種たより（カラー版）がご覧になれます。

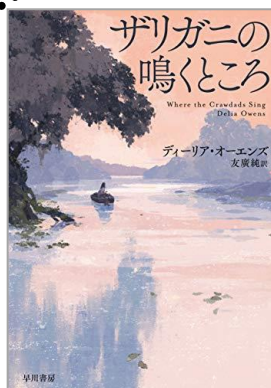
<http://www.ueis.ed.jp/school/koyo-j/>



..... おすすめの本



2021.5



「ザリガニの鳴くところ」 ディーリア・オーエンス著 早川書房 512p

ノースカロライナ州の湿地で村の青年チェイスの死体が発見された。人々は真っ先に、「湿地の少女」と呼ばれているカイアを疑う。6歳のときからたったひとりで生き延びてきたカイアは、果たして犯人なのか？ アメリカのまだ差別がある時代の様子もわかる。湿地の生き物を観察する能力や絵の才能がカイアの人生を明るくする。強く生きる少女の成長に感動する話。



「火のないところに煙は」 芦沢 央 著 新潮社 221p

「神楽坂を舞台に怪談を書きませんか」。突然の依頼に、かつて体験した恐ろしく苦い体験を思い出す。解けない謎、救えなかった友人、そこから逃げ出した自分。作家は、事件を小説にすることで解決を目論むが！？臨場感がありどんどん引き込まれる。そして最後に導かれる最恐の真実。どの話も意外性と説得力があり、怖いけど面白いミステリー。怖い話が好きな人におすすめの連作短編集。「染み」が怖い。裏表紙を見てさらに怖くなる。



「秘密の花園」 バーネット 著 KADOKAWA 432p

『小公子』『小公女』を書いたイギリスの有名な作家バーネットの感動の物語。突然両親を失いイギリスの屋敷へ引きとられたメアリー。つむじまがりだった少女は、病弱なコリン、動物と話ができるディコンに出会い、ガーデニングを通じて心を開いていく。メアリーと花園を中心に、魔法がかかったような素晴らしい出来事が起こり始める。美しい物語で心が浄化されそう。小中学生におすすめの古典童話。



「まっくろいたちのレストラン」 島本理生 著 岩崎書店 32p

まっくろいたちはぶきみなキバが悩み。そのためにずっと孤独だった。するどいキバをもついたちは、レストランでとてもおいしい料理を作るけれど、お客さんを怖がらせてはいけなと、ずっと後ろを向いて料理をする。そんなたちを真っ直ぐに見つめるうさぎのお嬢様が現れる。ちょっぴりほろ苦くて切なくてポッと温くなる絵本。コンプレックスや他者との違いを気にするということは、ただの自意識過剰であることを教えてくれる、やさしい物語



予約できます。

